

ネパールの風

98ネパール日記

ヤラ・ピーク登頂記 その・11

後藤 隆徳

カトマンドゥでの邂逅

第11日目 5月3日(晴) カトマンドゥ着11:40-終日カトマンドゥにて遊ぶ

久し振りにカトマンドゥに帰ってきた。相変わらず埃っぽく喧騒とした街だ。空港から車でホテルに向い、久し振りにシャワーを浴びサッパリした。

昼食は4人で「ダーバー・ホテル」最上階の日本料理屋で摂る。ここは日本人が経営している店だ。和服の美しい女主人が対応する。種類は少ないが「寿司」があるので、生ビールと一緒に注文した。寿司は「胃袋が歓喜するほど」美味かった。

シコタがやって来てA隊のヘリが飛ばないことを告げた。一同に驚きとも、喜び(自分たちは下山出来た)ともつかない、どよめきが起きる。「ナニー、ヤバイー、タイヘンダー」という感じである。

カトマンドゥのここから見るかぎりでは、上空は好天で、白い雲がプカプカと浮いている。とりたてて悪天候という感じではないが、やっぱり山はモンスーンの影響が出てきたのだろうか。仲間のことを考えると気の毒だが、下山出来る時、下山した私達は本当に幸運であった。

カトマンドゥに繰り出す。初めて足で歩く街は面白かった。いろいろとグルグル回り、ある土産物店に入った。店には仏像、木彫りの男女交合のレリーフ、布に書いた涅槃(ねはん)の絵、山刀、鋳造品、アクセサリなど、雑然と置いてある。ものの本によると殆ど輸入品で、本物は少ないとあった。稀に本物に当たると幸運とのこと。近隣諸国産のものが多い。

例によって絶対「正直」で買わない。元々「正価」などあってないに等しい。半分位に値切れる物もある。また、他の店との比較も大切なことで、一回目は軽く「また来るよ」と流したほうが良い。

翌日のことだが、旧跡の観光に回った。観光地にはたくさん物売りがいる。うるさく付きまとはっては土産物売りつける。そのうるさは並でなく、行けども行けども何時間で



(上) ガーバホテルの前にて右が
ラジエンドウさん

(中) ホウダナートにある仏像

(下) チベット仏教寺院ボウ
ダナート



も、加藤が少しニッコリでもしようものならサー大変だ、どこまでも、どこまでも追いかけて来る。まるで「カトマンドゥのアブ」（だから「アブない」）だ。基本的にはしっかりした店での購入がベストだ。質問にもしっかり答えてくれる。

その青年はチベットから持ってきたという黒壇（こくたん）の仏像を売りにきた。こちらでは黒檀製の物は沢山あり、仏像は一般的なものだが、最初100Rs（ルピー・約2000円）と言った。こちらで2000円と言えば日本の2万円位。相当な買い物だ。どうせ信用できる物でないのだから、買わないと断わるが執拗に追ってくる。

ところが、断りつづけると、何故か時間の経過とともに値段はドンドン下がる。1時間もすると80、75、60、50、30、20Rsになり、最後はとうとう10Rsになった。最初からそんなものなのだ。それでも買わなかった。こちらも意地だ。どうせ買うならしっかりした良いものを買いたい。



色黒で身体が大きい、目が綺麗な日本語の達者な店の人が対応に出た。日本語が上手いので交渉しながら、いろいろな話しをする。

話をすると、その人は来日したことがあり、日本各地を30日位旅行をしたという。私達も静岡から来た。静岡には4km近い富士山がある、とかで盛り上がった。そして、ネパールに来たこともあり、ネパールの知人に荷物を渡すよう頼まれた甲府の河野さんの話になった。すると何と、その人は河野さんを知っていると言うではないか。「エーッ、ウッソー、ホントー」である。

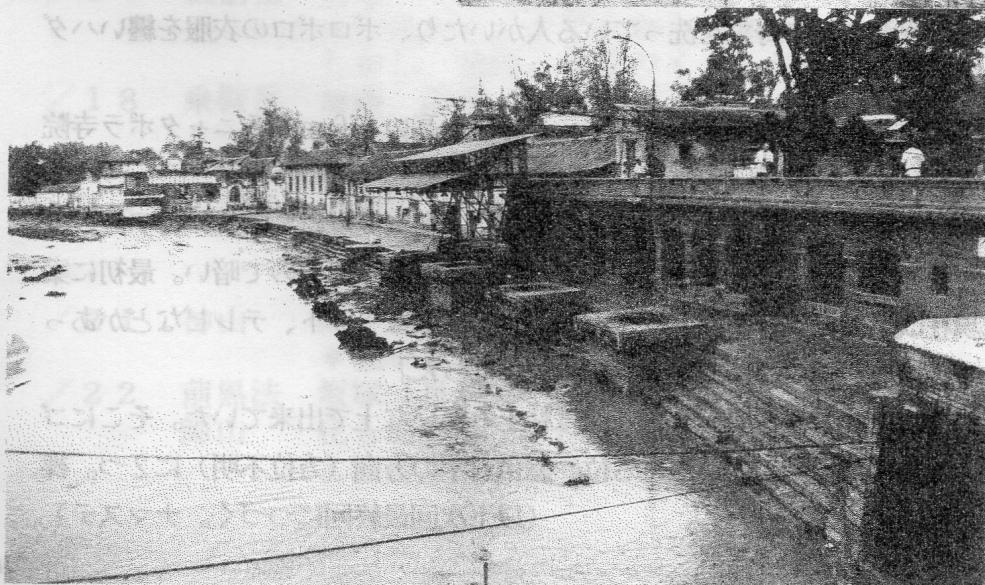
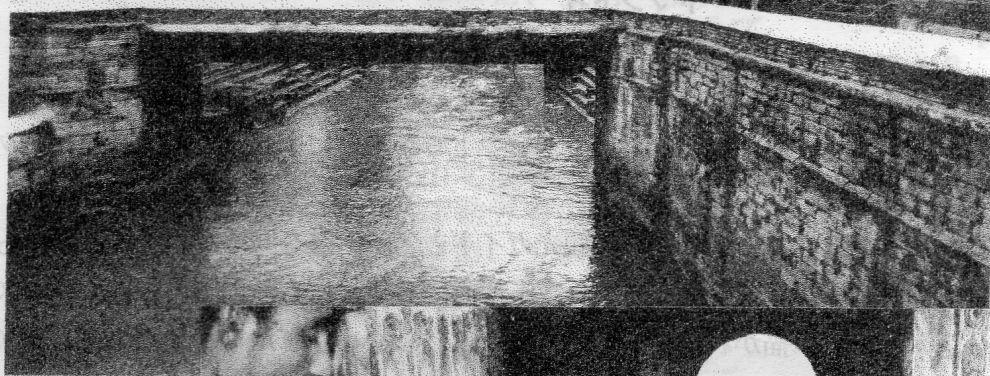
彼は歳の頃25～6歳の好青年。丸い顔をニコニコとますます丸くさせ、彫りの深い瞳でジッと見つめる。（インド系の方の目はどこまでも、蒼く澄んだ深海のようでジッと見つめられると足がすくんでしまう。これで河野さんも痺れた？）

実はこの人こそ、私達が河野さんから荷物を預かり、渡すように頼まれていた「カトマンドゥのラジェンドラさん」だった。彼はこの土産物店の他、旅行代理店も営む青年実業家だが、河野さんに与えられた予備知識は、こちらでシェルパだか、ガイドだかをやっているということだけだった。

渡す荷物もホテルのフロントに預け、本人が取りに来る手筈だった。まさかこんな所で偶然会おうとは。正に神の思し召し。カトマンドゥの奇跡？。青天の霹靂（へきれき）。超ナマステ・ナマステであった。

とにかく「そうですか。よかった、よかった。やあ、やあ、やあ」という感じで、改めてお互いを紹介し、今夜の夕食を共にする約束をし店を出た。

昼食は4人で近くの中華料理店で摂った。ギーザだか、チャーハンだか頼んだが、量が多く食べきれなかった。夜は近くのビア・ガーデンに遊びに行く。昔、日本にあった屋上ガーデンでエレキバンドがにぎやかな曲を演奏していた。隣のビルも同じような店があり張り合っていた。



(上)(中)(下)

いずれもヒン
ドゥー教寺院
パシパティナ
トにて

ラジェンドラさんの家に招待される

第12日目 5月4日(晴) カトマンドゥーバクタプル (Bhaktapur) - カトマンドゥー

ホテルで目覚めると、今泉はジョキングで出掛けていなかった。今日は午後からラジェンドラさんの家に招待されていた。家はカトマンドゥーから東に10余Km離れたバクタプルにあった。

午前中はラジェンドラさんに紹介された観光ガイドと名所旧跡を回った。世界遺産にも登録されているチベット仏教寺院・ボウダナート。直径27mにもおよぶ世界最大級のストゥパー(仏塔)とそれに描かれた眼、仏塔外周にはりめぐらされた700個のマニ車(経文が中に入った円筒状の仏具)が印象的。

ネパール最大のヒンドゥー教寺院・パシュパティナート。9月初旬には女性のお祭り・ティーズ祭がある。中に川が流れ川辺に火葬する石台がある。火葬したら骨は川に流すという。ただし、ここでそれが出来るのは金持ちのみとのこと。コブラ使いがいて袋に入れたコブラを操る。怪しげな連中で、写真を撮ったら5Rs要求された。

パターン王宮跡はやはり世界遺産に登録されている木造の多重建築。400年前のものという。入り口に木造の大きなライオン像がある。400年前はこの辺りにもライオンが生息したようだ。



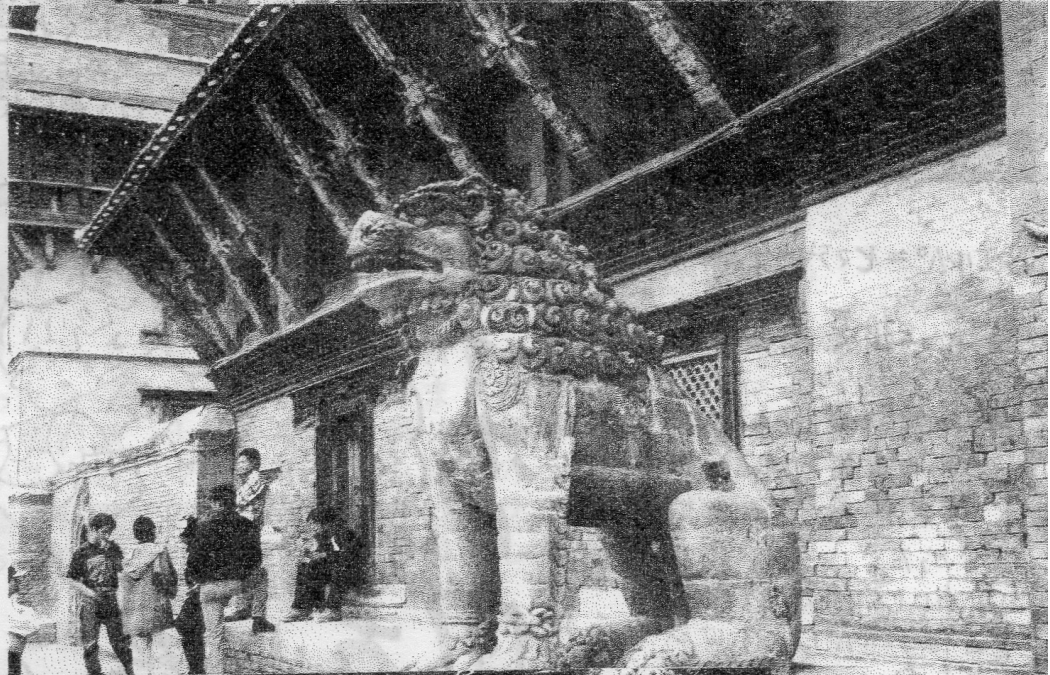
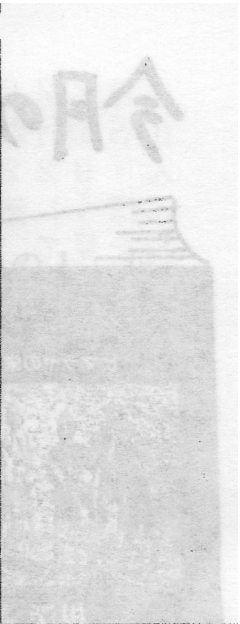
午後から3人で軽4輪のタクシーに乗りラジェンドラさんの家に向かう。今泉は最後の夜のアバンチュールを楽しみに単独行動。シコタが推薦する「チキン・バスケット」も食べたいという。

郊外に向かうにしたがって家が少なくなり、段々と田舎になっていく。雑然さは言うまでもない。真茶色の水溜まりで野菜を洗っている人がいたり、ボロボロの衣服を纏いハダシで歩いている人もいる。

いつしか黒雲が広がり雨が降ってきた。ネパールで最も高い36mあるニャタポラ寺院の「五重の塔」を見学した。家はこの直ぐ近くにあった。

家は郊外の洒落た一軒家とはいかず、例の軒を連ねた4階(実際は3階位)のアパート風のものだった。狭い階段を上がって行く。天井が低く電灯が少ないので暗い。最初に案内された部屋は現在改装中のラジェンドラさんの部屋で清潔なベット、テレビなどがあった。そこでビールを飲み、奥の部屋で夕食を御馳走になった。

奥の部屋は居間兼食堂で8畳位の大きさ。床は粘土みたいな土で出来ていた。そこにゴザを敷いて座る。天井は低く私の頭が当たる位。窓は右手の方向(方位不明)に2つ。裸電球が一つあるだけなので暗かった。(以下次回最終回につづく。ナマステ)



(上)(中)(下)
 いずれもパワ
 王宮跡にて

(吉)